

1. 評価結果概要表

作成日 2009年2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0872100391
法人名	社会福祉法人 新世会
事業所名	グループホーム いくり苑
所在地	茨城県ひたちなか市磯崎町4555-1 (電話) 029-264-2880

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年12月14日	評価確定日	平成21年3月6日

【情報提供票より】(平成20年11月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 10月 15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	32 人	常勤	22人, 非常勤 7人, 常勤換算 4.7人

(2) 建物概要

建物構造	平屋 造り
	階建ての 1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	27 名	男性	1 名	女性	26 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	10 名	要介護4	10 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	64 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	恵愛小林クリニック アイビークリニック かむかむ歯科 石崎病院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームはサツマイモ畑の広がる静かでどかな場所に建てられており、ホームからほど近い太平洋の海風を感じられる。ホーム内は利用者がゆくりと過ごせる空間となっており、利用者や職員の明るい声が行き交っている。職員のケアサービスに対する意識は高く、多種多様な研修に参加するなど、向上心が窺え、管理者の質の高いケアへの熱意が伝わってくる。地域の中で共に生きるという考えのもと、設立当初より運営されている。今後も家族や地域、行政との連携を取りながら利用者主体のケア提供に期待ができるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価内容については評価の意義を理解した上で職員全体で考えている。評価を受けて災害時の対応として水や食物などの備蓄を現在も継続して備えている。毛布が社協より提供されるなど積極的に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で考え、評価を記載してもらっている。各自、これまでのケアの振り返りとして捕らえ、より質の高いサービスの提供ができるよう取り組みを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に会議が開催されており、ホームの状況や各取り組み、外部評価の内容や結果など報告している。前回の評価報告の際は、ホームが災害時、地域住民が活用できる社会資源のひとつであることを地域に理解が得られ、会議が活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	広報誌を定期的に発行し日常の様子を報告している。家族にも支払いの際に利用者の様子を見せようなどし、意見や要望などを直接聞き、家族と一緒に利用者にとっての最善の方法を考える機会となっている。苦情に関しては第三者委員を設置し、外部の意見も大切に考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会しており、利用者が自分の家から出て行くように地域の様々な活動に参加している。毎年中学校の文化祭や神社の菊祭りなど参加が恒例となっている。ホームの季節のイベントにも招待し、積極的に地域交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との結びつきを大切にした考えを理念とし掲げ、全職員で理念に基づいたケアの実践ができるよう心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念を意識したケアのあり方を、職員は会議などを通して話し合い実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、多様な地域活動に参加している。地域の中学文化祭への参加は毎年の恒例となっている。ホーム主催のイベントにも地域の方は参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意味を十分理解されており、評価内容は会議で取り上げ改善に向けて意見を出し合いながら取り組みを行っている。自己評価は全職員が評価し、それをまとめ作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、外部評価での結果なども報告し、意見を頂戴している。		会議に家族も参加されることで、家族からの意見がサービスや運営に反映できるよう、推進会議日程の調整や伝達方法を今後も引き続き工夫して欲しい。

茨城県 グループホームいきり苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の会議に参加したり、市の窓口などに積極的に足を運ぶなど、市との接点が多い。また、市の職員もホームを訪れることもあり、利用者の様子を知ってもらう機会となっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回広報誌を発行し家族へホームでの利用者の様子を報告している。受診などの結果は電話などで随時報告をしている。利用料の支払い時にはなるべく家族にホームへ来てもらい、実際の様子を見ていただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理ノートへの記載をお願いしたり、家族会の開催時や面会時に直接口頭で苦情や意見を聞いている。第三者委員を設置し、外部からの貴重な意見として運営に活かされている。		家族会や面会などで得た家族からの意見を支援経過として記録に残し、今後のケアサービスや運営に役立てて欲しい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内での異動は法人としては行っておらず、利用者への影響がないように考慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して1人1回は外部研修に参加できるように計画をしている。研修後は全体会議などで他職員へ向けて報告をし、常に知識の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームを研修の場として提供しており、研修を通して他施設から多くの参加がある。複数の施設と互いに研修を開催することで交流の機会を得たり、ネットワークづくりに役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学やショートステイなどのサービスを利用してもらったりしながら家族や本人が納得してから利用としている。利用開始前には在宅のケアマネと一緒に訪問し馴染みの関係作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から学ぶことは多く、時には教えてもらう状況を作りながらお互いに支えあう関係を築き上げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話に耳を傾け、会話をし、できる限りの思いや希望などに添えるよう努めている。また、職員は利用者の思いや暮らし方について悩む時にはカンファレンスなどを開催しながら検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制をとり、アセスメントに重点を置き、朝礼時に計画のカンファレンスを開き、職員間で話し合っている。家族や本人の意見が反映できるような介護計画の作成にあたっている。介護計画に添った記録がなされるよう、記録用紙の変更、検討をしながら取り入れていく工夫をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しや変化があったときには随時見直しを実施しており、その際には家族や本人との話し合いの場を設けて適切な変更をしている。また、職員間での視点が統一されたものになるよう、月1回のカンファレンスを行い、見直しについての共有を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や要望に応じ、面会時間や食事時間など制限を持たせず柔軟な対応としている。近隣の事業所との連携も図りながら要望に応えられるよう体制ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はホームに協力的であり、24時間体制となっている。利用者の健康状態に応じて往診も可能となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には契約時に重度化、終末期についての話をしており、ホームの方針を明確にしている。終末期に関しての話し合いには医師も含め行っている。ホーム側としては基本的には看取りケアの実施は行わないが、本人や家族の要望に応じた事例はある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に関するマニュアルが用意されており、事務所内に掲示されている。職員はプライバシーに関する研修に参加しており、知識を深めた上で利用者への対応がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりに合った過ごし方やペースを考慮し、個別ということを心がけて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に準備や調理、会話をし、楽しみの一つとなるよう支援されている。季節感が味わえるような工夫も見られる。調査訪問当日には利用者同士、相談しながら調理をされている姿が見受けられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望を聞きながら、毎日自由な時間帯で入浴ができるよう準備がされており、一人ひとりに合わせた体制となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者のこれまでの生活歴や習慣などを把握し、一人ひとりの能力を見極め役割づくり・楽しみごとの支援としている。また、その環境づくりとして、定期的に生け花や絵手紙などのボランティア導入を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1回以上のペースで近所へ散歩、買い物に出かけている。外出の際には、ホームの車ではなく公共の交通機関(バス)を使用し出かけられるよう新たな取り組みとして検討している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はしておらず、日中玄関は自由に開閉できる。夜間のみ防犯上利用者と一緒に施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練実施、一般救命救急講習も受講している。災害対策として職員は備蓄品の準備や広域避難所の把握もされている。地域への協力要請も自治会を通して話されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士に献立についての意見をもらい、バランスを考えている。食事制限のある利用者についてアドバイスをもらい、一緒に考え工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある草花や装飾は華美ではなく、昔の道具や物を置いたり自然である。今後共有スペースの新たな環境づくりに取り組んでいく方向である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の馴染みのものを積極的に持ち込んでもらい、個々の個性が感じられる居室となっている。		